

説明文書の整備状況

■ 治療の説明文書を病院で整備するのはどうしてですか？

医師は、患者さんにとっての最善を考えて、治療を提案します。治療を受けることによってどのような効果が得られるのか、を治療を受ける前に患者さんに説明します。治療をするにあたって、受け入れなければいけない一時的な辛さもありますが（例：抗がん剤副作用）、患者さんと一緒に、それを乗り越えるために、治療前にお伝えします。

医学的な限界や合併症などのリスクについても事前に文書を用いて説明し、患者さんと一緒に何がよいか考えます。

Q:京大病院では、手術の説明の工夫がありますか。

A:説明文書の内容をわかりやすくするために、IC責任者が内容を確認しています。患者さんからのご感想もお待ちしています。ICアンケートにお声を寄せてください。

診療科→IC責任者※に文書案を提出

IC責任者が文書を修正

臨床倫理委員会承認



※ IC（インフォームド・コンセント）責任者

患者さんが、**診療計画に関する必要な情報を得て、治療に同意すること（しないこと）**を、インフォームド・コンセントといいます。

インフォームドは「情報を知らされること」、コンセントは「同意」のことです。患者さんは、治療によって、期待される効果について説明を受けますが、リスクについても、説明を受けます。

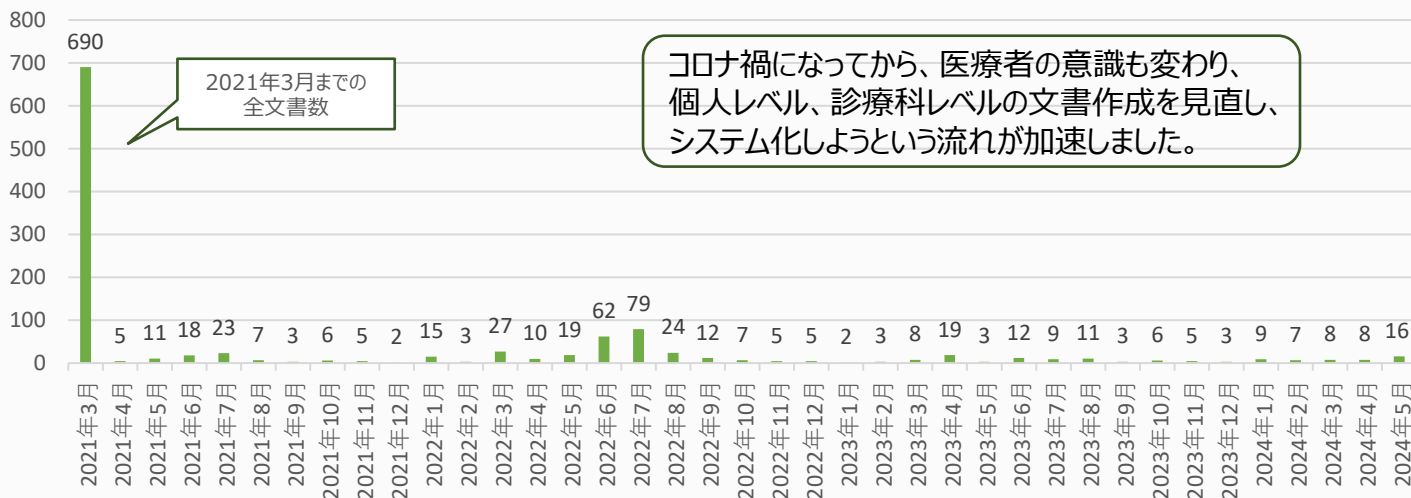
患者さんには、納得して、治療を受ける権利があります。

各大学病院では**IC責任者**を定めており、ICの環境を整備し、患者さんが納得して医療を受けることができるよう後方支援しています。

■ 説明文書はどの程度ありますか？

2024年6月1日現在、**594の文書**が認証済みです。医療内容の変更に応じて改訂を行っており、約1230の新規認証、改訂認証を行ってきました。

各月あたりの新規改訂文書数



臨床倫理委員会承認済み文書数一覧

診療科名		診療科名		診療科名	
循環器内科	30	眼科	46	産科・婦人科	69
小児科	21	皮膚科	7	泌尿器科	30
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	21	整形外科	38	精神科・神経科	4
歯科口腔外科	17	放射線治療科	5	麻酔科	14
脳神経外科	26	形成外科	17	血液内科	18
心臓血管外科	9	初期診療・救急科	7	放射線診断科	29
消化器内科	24	免疫・膠原病内科	0	腎臓内科	11
腫瘍内科	18	消化管外科	9	乳腺外科	7
肝胆膵・移植外科	17	小児外科	35	脳神経内科	5
感染制御部	1	呼吸器内科	5	呼吸器外科	5
糖尿病・内分泌・栄養内科	0	緩和医療科	0	NICU	4
薬剤部	3	遺伝子診療部	2	共通	50

2024年6月1日現在

◆ 2016年度

- ・ IC責任者を決めました。
- ・ 手術等の説明を受けた患者さんを対象に患者アンケートの定期実施を開始しました。

アンケート結果一部抜粋

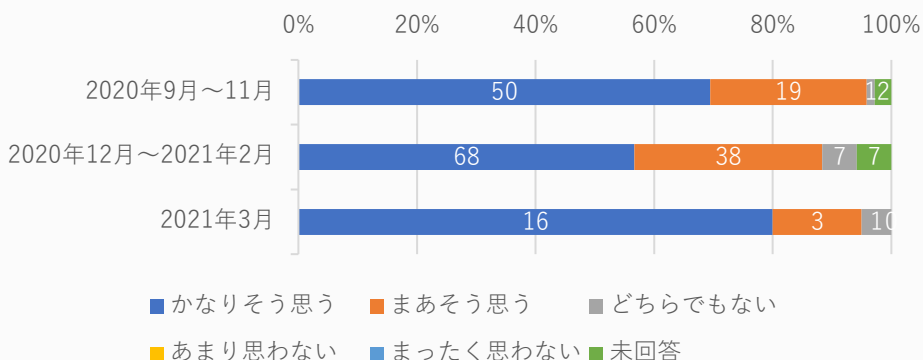
2020年度のアンケート結果の一部です。患者さんの評価を説明文書整備やICの場の設定に反映させ、改善を図っています。

改善につながるご意見もいただいています。

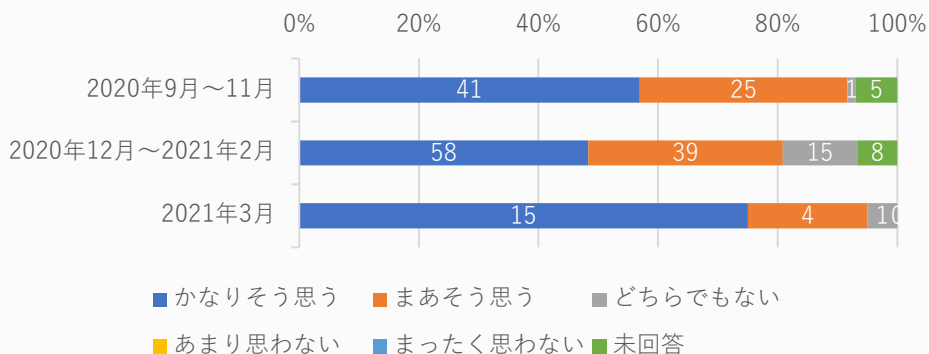
「今回手術は初めての経験でしたが、こういう話は入院前(手術が決定する前)に聞けたら良いように思いました。(今回のインフォームドコンセントで迷いが生じたという意味ではありません)このタイミングでは選択の余地がほぼ無いと思うので。説明は大変丁寧で分かりやすかったです。」

2021年2月女性40~60代

医療者は、私が質問しやすい雰囲気になるように、心がけていた



私は、自分の意向・希望を治療方針の決定に反映できた



■ 課題

診療科が作成した原案を整え、校正する作業を医療安全管理部が行っており、関わっている人数は限定されています。患者さんの声を取り入れて改善したり、多くの職種の意見を取り入れることが今後の課題です。

リスクに関する具体的な本院のデータが反映されていないので、本院の医療の質指標との連携も望ましいと考えています。

患者さんと一緒にによりよい医療を考えていくためのひとつの支援となるような説明文書を整備したいと考えています。

